

第41回情報理論とその応用シンポジウム (SITA2018) 予稿集 原稿様式

How to Write a SITA2018 Manuscript

SITA2018 事務局*
SITA2018 Secretariat

Abstract— This document provides information on a SITA 2018 manuscript.

Keywords— SITA2018, L^AT_EX, style file

1 はじめに

本稿には、SITA2018 予稿集の原稿の作成・提出に関する情報が記載されています。

2 予稿集用原稿の作成

投稿された PDF 原稿ファイルをそのまま USB メモリに収録して予稿集を作製します。また、原稿の著作権は、電子情報通信学会に帰属します。シンポジウム Web サイト (<http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2018/>) に掲載してある注意事項を厳守して、PDF 原稿を作成して下さい。

2.1 様式

- サイズ A4 判 (縦 297mm, 横 210mm)
- 論文題目, 著者名, あらまし, 本文等全てを含み最大 6 頁
- 論文題目が英文の場合は, 前置詞と冠詞を除き, 単語ごとに一文字目は大文字
- 印刷時の上余白 25mm 以上, 下余白 20mm 以上, 左右余白 17mm 以上
- 2 段組, 10pt 程度の文字
- PDF ファイル容量 3MB 以下

SITA2018 原稿の L^AT_EX スタイルファイルおよび Word 用テンプレートが, SITA2018 ホームページ

<http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2018/>

より入手できます。

2.2 ヘッダ

PDF 原稿の第一頁において, 上余白 9mm(以上) 右余白 9mm(以上) あけ, 7pt 程度の文字で

The 41st Symposium on Information Theory
and its Applications (SITA2018)

Iwaki, Fukushima, Japan, Dec. 18–Dec. 21, 2018

と記入して下さい。第二頁以降にヘッダは不要です。スタイルファイルを使用している場合, このヘッダは自動的に挿入されます。

2.3 第一頁に記載する事項

第一頁に次の事項を記載してください。

1. 本文が和文のとき

- 論文題目 (和文と英文の両方)
- 著者名 (和文と英文の両方)
- 著者の所属, 所在地 (和文と英文の両方)
- あらまし (約 100 語の英文)
- キーワード (英文で 3~5 個)

なお, 和文のあらましとキーワードは必要ありません。

2. 本文が英文のとき

- 論文題目 (英文)
- 著者名 (英文)
- 著者の所属, 所在地 (英文)
- あらまし (約 100 語の英文)
- キーワード (英文で 3~5 個)

2.4 カラー, 写真について

SITA2018 予稿集は, USB メモリで発行しますので, カラー (写真) の使用も可です。ただし, 白黒印刷をして利用することも考えられますので, 白黒印刷でも内容の把握が可能であるようご配慮ください。

3 論文投稿方法について

原稿は PDF ファイルでご用意下さい。論文原稿は発表申込専用サイトで受け付けます (SITA2018 ホームページ <http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2018/> よりリンクが張ってあります)。

論文投稿システムに関するお問い合わせは,

sita-2018-submit@mail.ieice.org

までお願い致します。

3.1 注意事項

原稿が指定の様式を満たしていることを確認して下さい。なるべく複数のシステムで PDF 原稿が閲覧・印刷できることを確認しておくで確実です。

* 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1 電気通信大学大学院
情報理工学研究科 総合情報学専攻, Department of Informatics,
Graduate School of Informatics and Engineering, The Uni-
versity of Electro-Communications, 1-5-1 Chofugaoka, Chofu,
Tokyo 182-8585, Japan. E-mail: sita-2018@mail.ieice.org

文献

- [1] SITA2018 Secretariat, “How to write a SITA2018 manuscript,” The 41st Symposium on Information Theory and its Applications, 2018.